

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871200329
法人名	社会法人 亀天会
事業所名	グループホーム鶴翠
所在地	愛媛県西条市大野284番地2
自己評価作成日	平成 21年 11月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21年 12月 4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症ケア、介護技術の向上のために外部研修の参加、事業所内での勉強会を行っている  
入居者の方の思いに寄り添いながら生活支援を行っている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者に寄り添った生活支援を第一に考え、安心で安全なケアができるよう、職員の勉強会にも力を入れている。母体法人は特別養護老人ホームやケアハウス、小規模多機能型事業所、居宅介護支援事業所等を運営しており、総合福祉施設として地域に貢献している。利用者の状況に応じた生活の場所の選択ができるよう、法人内事業所が連携して支援する体制が整っており、利用者や家族の安心につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム鶴翠

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)  
氏名 佐伯敏子

評価完了日 平成21年 11月 1日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 事業所の理念は全職員が共有できるよう具体化し伝え個人個人へのケアの実践に努めている</p> <p>(外部評価) 管理者は、ホームの運営理念を踏まえた上で、職員と利用者の日々の関わり方について、職員会や申し送りの度に「ゆったりと、おだやかに、利用者の気持ちに寄り添った支援を心がける」ケアのあり方について話し合い、共有している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 散歩等の外出時に近所の方と挨拶や会話をしている スーパーに買い物に出掛けたり、学校、保育園、公民館で行われる行事の見学、参加をしている 運営推進会議では自治会長、民生委員の方の参加があるがホームへ来られる方がほとんどいない</p> <p>(外部評価) 地域の小・中学校との交流や、地域行事への参加等は毎年継続して行っている。管理者は地域の民生委員会に出席し、ホームの紹介、待機者情報、パンフレットの配布等、地域に向けた情報を発信し始めたばかりであるが、今後も定期的に出席して情報交換しようと意欲的に取り組んでいる。</p>	地域の方が日常的にホームに足を運んでくれるような雰囲気が自然に出てくるような取り組みを期待したい。広い談話コーナーを利用したボランティアの受け入れ等、幅広い交流ができるような取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域運営推進会議を開催し地域の方々に情報発信している 民生委員会にも出席し認知症の方への理解や支援の方法を伝えている</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議にてその場の意見をサービスに活かして いる	
			(外部評価) 地域の自治会長、民生委員、地域包括支援センター、 利用者、家族、管理者及び主任が参加し、定期的 に開催して情報交換を行っている。自治会長から 地区の避難場所としてホームの利用を考えてほ しい等の提案があったり、民生委員から会への 参加のお誘いがあるなど、活発な意見交換の場 になっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議にて報告し協力関係を築いてい る 又、必要時は関係機関に行き担当者と話をし ている	
			(外部評価) 毎回地域包括支援センターからの参加があり、 意見交換している。市職員の参加は日程的に 困難な状況にあるが、待機状況等の問い合 わせがあれば、直接パンフレットを持って出 向くなど、協力関係を築くよう取り組んでい る。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘 束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 研修や勉強会に参加し全職員が身体拘束をし ないケアを実践している	
			(外部評価) ホームを出てすぐに交通量の多い主要道路 があるため、開設当初より、安全面を考慮し て玄関・居室の窓等は施錠しているが、入居 の際に家族とも十分話し合い、理解を得てい る。利用者の精神的な弊害も考慮し、中庭に 出る、ドライブに行く等で気分転換を図って いる。また、定期的にミーティングの議題に 上げて検討を続けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会に参加したり職員会、ユニット会で話し合い虐待防止について勉強をしている 職員同士でも虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 入居者の方で成年後見人制度を利用開始される方がいる 経過は全職員が把握し、制度について勉強したり理解を深めている	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な話し合いを行っている 解約時にはその後の対応も視野に入れ話し合いご家族に不安のないよう対応を図っている	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議を開催し御家族の意見を聞き運営に反映させている。意見箱を設置したり面会時にも意見を聞く機会を設けている。介護相談員の訪問は定期的であり入居者の要望を聞き取っている。  (外部評価) 運営推進会議において、家族からの意見や要望があればその都度対応している。年4回行うホーム行事にもお誘いし、利用者の1/3程度の家族が参加して情報交換するなど、要望等を聞く機会を設けている。また、毎月介護相談員の訪問がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ユニット会や職員会にて意見交換を行っている  (外部評価) 毎月の職員会、ユニット会の時にも聞く機会はあるが、普段の様子等から必要があれば個別の面接を行うなど話を聞く機会を設けており、相談できる体制がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員個々の努力など把握し各自が向上心を持って働けるように職場環境、条件の整備に努めている	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 個別の能力を考慮して、外部研修の参加や事業所内でも勉強会を開催している	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 外部研修の参加や他事業所との交流の機会を設けネットワークづくりを行っている	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人が困っている事、不安な事要望を聞きながら信頼関係を築いている 言葉にならない訴えも把握できるように表情を汲み取り関係づくりに努めている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面接を行い、生活状況を把握している 家族の困っていること、不安なこと、要望等を聞き取り関係づくりに努めている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 状況や状態を把握し必要としている支援を見極めている やむを得ずすぐ利用になった場合にはご家族に協力をお願い面会してもらう等、安心感を持ってもらうようにしている	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 昔から知っている知恵などを教えて頂く事がある 生活を共にする関係作りをしている	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 入居者の日々の様子を随時家族へ伝え情報の共有に努めている 家族の思いを聞き取り本人を支えていく為の協力関係を築いている	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域で暮らす知人や友人等の面会や電話で話す関係がある 継続的な交流が保てるように働きかけている  (外部評価) 希望に応じて、家族の協力を得ながら墓参りや行きつけの美容院等への外出ができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者同士の関係を把握した上で支え合えるような関係を支援し孤立しないように努めている	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 可能な限り情報提供を行い相談や支援に努めている	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 声かけや会話の中で思いや意向を聞き情報を得ている  (外部評価) 利用開始前に、本人及び家族から話を聞き、思いや意向を把握するよう努めている。入居後は、日々の関わりの中での気づきを申し送りノートに記録して職員全員が把握し、情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 生活歴等を本人、家族の方に聞き取り日々の生活にかかしている	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 生活リズムを把握し、本人のできる力や分かる力を発見できるように努めている。職員は申し送りや日々の記録で総合的に把握をしている	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 日々の生活の中で関わりや感じたこと課題になっている事を、家族と情報交換し介護計画に反映させている	
			(外部評価) 介護計画にそった支援となっているかを日々チェックする様式を活用している。また、毎月のユニット会議で担当者を中心に皆で話し合った気付きを計画に活かしている。管理者は、家族の面会時や毎月の報告書にて情報交換を行い、意見を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子は個別生活記録へ記入している 申し送りノートの活用にて情報を共有し、支援の実践や介護計画の見直しに活かしている	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 要望や状況に応じて支援している	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の行事等へ参加したり図書館等の利用をしている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 協力医療機関の診察と、本人、家族の要望に応じて適 切な医療を受けられるよう支援している	
			(外部評価) 利用者や家族が入居前からのかかりつけ医への受診を 継続して希望する場合、職員が通院を支援している。 家族が受診に同行する場合も、管理者がかかりつけ医 に情報提供し、また受診後は家族から報告を受けて適 切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護師が職員として各ユニット1名ずつ配置されてい る 日常の健康管理を行い相談出来るよう支援している	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 病院や家族と情報交換を行い早期に退院できるよう努 めている ソーシャルワーカーの方と情報交換を行っている	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した時の対応は家族の方と話し合いをしている	
			(外部評価) 看取り指針を作成しており、基本事項や留意事項を定 めているが、実際に看取りの経験はない。現在のところ、 食事が食べられない状態で医療的処置が必要にな れば、家族と話し合っ医療機関に転院となるケース が多い。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事故発生時のマニュアルが作成されており、研修や勉強会に参加して実践力を身につけている	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練や避難方法を消防署を立会いのもと、実施している 地域との協力が得られるよう地域運営推進会議の場で、働きかけを行っている  (外部評価) 消防署立会いのもとで行っている防火訓練の様子を運営推進会議で報告し、現状を知ってもらえるよう働きかけている。訓練の結果を踏まえて自主的に防災訓練を行うよう計画である。	地域で行われる防災訓練等に積極的に参加することで、地域の一員であるという共通認識を持ってもらえるよう根気良く働きかける努力と工夫を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 1人1人の誇りやプライバシーを損ねないよう言葉かけを行っている 職員会やユニット会の時には対応を話し合い意識の統一を図っている  (外部評価) トイレ誘導時の声かけや入浴時・排泄時等には特に注意してプライバシーに配慮し、本人の気持ちを大切にしたいケアを心がけている。不適切な声かけ等があれば、その都度管理者やユニットの主任からアドバイスを受け、職員間でも気をつけ合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 入居者の方との会話から本人の思いが自然に出る話題作りを職員は心がけている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 1人1人の個性に合わせた支援を行っている その日、その時の本人の気持ちを尊重した支援をしている	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 季節に合った服、衣類を用意している 理、美容については家族や本人の要望を聞き取り対応している	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 調理の下ごしらえや、食前のお茶を配る等、入居者の方がそれぞれ出来る事を行っている  (外部評価) 食事は、副菜のメインとなるものを購入し、配送してもらい、それ以外は利用者と共に調理している。食材等の購入は利用者と一緒に行き、食事の準備・調理等を行っている。利用者からの希望はメニューに取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 1人1人の食事量及び水分量を把握している	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、1人1人の口腔ケアを実施している 出来るところは見守りし状況に応じ、介助を行っている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個人の排泄パターンが分かるようチェックしている トイレで排泄してもらい自立支援に努めている	
			(外部評価) トイレ誘導の時間を大まかに決めていますが、利用者の様子を見ながら随時支援しており、可能な限りトイレでの排泄が可能になるよう努めている。自力での排泄が可能利用者についても、できること・できないことを把握し、適切に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 個人の排泄状態を把握、確認しながら体操や水分補給を行い個別に対応している	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 1人1人入浴を楽しめるよう支援している 仲の良い方同士は誘い合って入浴することもある	
			(外部評価) 浴室、脱衣室とも、職員がゆったりと介助できる十分な広さがあり、車いすの利用者も安全に入浴できる。特殊浴槽はないが、浴槽が中央にあり両側から介助することができるため、今後重度化がすすむことがあってもリフト等を設置しての対応が可能と考えられる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の状況に応じた支援に努めている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の管理は看護師がおこなっている 薬の用法、用量は個別の薬表を確認し理解している	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴を生かした役割を見つけ行っている 楽しみ事に取り組み日々を過ごせるよう支援している	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 1人1人の希望に応じ、外出支援に努めている 家族の協力を得て墓参りに行っている	
			(外部評価) 近所への散歩は日常的に行っており、寒い時期には広い中庭で日向ぼっこをしたり、草引きをしてストレス発散をしている。また、買い物やドライブで気分転換する機会も計画的にもっている。また、個々に希望があれば家族の協力も得て外出できるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物に出た時には所持している お金で支払えるよう支援している	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話で会話したり年賀状を書いて出している 家族や知人とのやり取りもある	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 室温、湿度調整を行い快適な状態で過ごして頂いている フロア内に入居者の方が作ったその季節に合ったものや花等を飾り季節感のある空間作りを行っている	
			(外部評価) エアコンで温度調節し、足元が冷えないよう床暖房を完備している。加湿器と窓の開閉で湿度を調整している。リビングの窓から広い中庭を眺めることができ、ソファに座ってのんびりと寛げる。トイレの表示も利用者に配慮した工夫がみられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) フロア内、エレベーターホール前にソファ、イスを用意し、個々の好きなどころで過ごしたり、仲の良い入居者の方同士で過ごしていただけるよう工夫している	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族の写真を飾ったり、馴染みの物や使い慣れた家具を持ってきて頂いている	
			(外部評価) ベッド、整理たんす、カーテンは備え付けている。クローゼットがあるため居室をゆったり使うことができ、思い思いの馴染みの品等が持ち込まれ、居心地よく生活できるよう個別に工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 段差がなく手すりを設置し安全な生活を確保している 各居室、トイレ、浴室には表札や表示をしている	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871200329
法人名	社会法人 亀天会
事業所名	グループホーム鶴翠
所在地	愛媛県西条市大野284番地2
自己評価作成日	平成 21年 11月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21年 12月 4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症ケア、介護技術の向上のために外部研修の参加、事業所内での勉強会を行っている  
入居者の方の思いに寄り添いながら生活支援を行っている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者に寄り添った生活支援を第一に考え、安心で安全なケアができるよう、職員の勉強会にも力を入れている。母体法人は特別養護老人ホームやケアハウス、小規模多機能型事業所、居宅介護支援事業所等を運営しており、総合福祉施設として地域に貢献している。利用者の状況に応じた生活の場所の選択ができるよう、法人内事業所が連携して支援する体制が整っており、利用者や家族の安心につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		



(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム鶴翠

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)  
氏名 佐伯敏子

評価完了日 平成21年 11月 1日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 事業所の理念は全職員が共有できるよう具体化し伝え個人個人へのケアの実践に努めている</p> <p>(外部評価) 管理者は、ホームの運営理念を踏まえた上で、職員と利用者の日々の関わり方について、職員会や申し送りの度に「ゆったりと、おだやかに、利用者の気持ちに寄り添った支援を心がける」ケアのあり方について話し合い、共有している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 散歩等の外出時に近所の方と挨拶や会話をしている スーパーに買い物に出掛けたり、学校、保育園、公民館で行われる行事の見学、参加をしている 運営推進会議では自治会長、民生委員の方の参加があるがホームへ来られる方がほとんどいない</p> <p>(外部評価) 地域の小・中学校との交流や、地域行事への参加等は毎年継続して行っている。管理者は地域の民生委員会に出席し、ホームの紹介、待機者情報、パンフレットの配布等、地域に向けた情報を発信し始めたばかりであるが、今後も定期的に出席して情報交換しようと意欲的に取り組んでいる。</p>	地域の方が日常的にホームに足を運んでくれるような雰囲気が自然に出てくるような取り組みを期待したい。広い談話コーナーを利用したボランティアの受け入れ等、幅広い交流ができるような取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域運営推進会議を開催し地域の方々に情報発信している 民生委員会にも出席し認知症の方への理解や支援の方法を伝えている</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議にてその場の意見をサービスに活かして いる	
			(外部評価) 地域の自治会長、民生委員、地域包括支援センター、 利用者、家族、管理者及び主任が参加し、定期的に開 催して情報交換を行っている。自治会長から地区の避 難場所としてホームの利用を考えてほしい等の提案が あったり、民生委員から会への参加のお誘いがあるな ど、活発な意見交換の場になっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議にて報告し協力関係を築いている 又、必要時は関係機関に行き担当者と話をしている	
			(外部評価) 毎回地域包括支援センターからの参加があり、意見交 換している。市職員の参加は日程的に困難な状況にあ るが、待機状況等の問い合わせがあれば、直接パンフ レットを持って出向くなど、協力関係を築くよう取り 組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 研修や勉強会に参加し全職員が身体拘束をしないケア を実践している	
			(外部評価) ホームを出てすぐに交通量の多い主要道路があるた め、開設当初より、安全面を考慮して玄関・居室の窓 等は施錠しているが、入居の際に家族とも十分話し合 い、了解を得ている。利用者の精神的な弊害も考慮 し、中庭に出る、ドライブに行く等で気分転換を図っ ている。また、定期的にミーティングの議題に上げて 検討を続けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会に参加したり職員会、ユニット会で話し合い虐待防止について勉強をしている 職員同士でも虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	(自己評価) 別ユニットの方で成年後見人制度を利用開始される方がいるので、経過は全職員が把握し、制度について勉強したり理解を深めている	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な話し合いを行っている 解約時にはその後の対応も視野に入れ話し合いご家族に不安のないよう対応を図っている	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議を開催し御家族の意見を聞き運営に反映させている 意見箱を設置したり面会時にも意見を聞く機会を設けている 介護相談員の訪問は定期的であり入居者の要望を聞き取っている	
			(外部評価) 運営推進会議において、家族からの意見や要望があればその都度対応している。年4回行うホーム行事にもお誘いし、利用者の1/3程度の家族が参加して情報交換するなど、要望等を聞く機会を設けている。また、毎月介護相談員の訪問がある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ユニット会や職員会にて意見交換を行っている  (外部評価) 毎月の職員会、ユニット会の時にも聞く機会はあるが、普段の様子等から必要があれば個別の面接を行うなど話を聞く機会を設けており、相談できる体制がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員個々の努力など把握し各自が向上心を持って働けるように職場環境、条件の整備に努めている	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 個別の能力を考慮して、外部研修の参加や事業所内でも勉強会を開催している	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 外部研修の参加や他事業所との交流の機会を設けネットワークづくりを行っている	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人が困っている事、不安な事要望を聞きながら信頼関係を築いている 言葉にならない訴えも把握できるように表情を汲み取り関係づくりに努めている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面接を行い、生活状況を把握している 家族の困っていること、不安なこと、要望等を聞き取り関係づくりに努めている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 状況や状態を把握し必要としている支援を見極めている やむを得ずすぐ利用になった場合にはご家族に協力をお願い面会してもらおう等、安心感を持ってもらうようにしている	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 昔から知っている知恵などを教えて頂く事がある 生活を共にする関係作りをしている	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 入居者の日々の様子を随時家族へ伝え情報の共有に努めている 家族の思いを聞き取り本人を支えていく為の協力関係を築いている	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域で暮らす知人や友人等の面会や電話で話す関係がある 継続的な交流が保てるように働きかけている  (外部評価) 希望に応じて、家族の協力を得ながら墓参りや行きつけの美容院等への外出ができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者同士の関係を把握した上で支え合えるような関係を支援し孤立しないように努めている	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 可能な限り情報提供を行い相談や支援に努めている	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 声かけや会話の中で思いや意向を聞き情報を得ている  (外部評価) 利用開始前に、本人及び家族から話を聞き、思いや意向を把握するよう努めている。入居後は、日々の関わりの中での気づきを申し送りノートに記録して職員全員が把握し、情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 生活歴等を本人、家族の方に聞き取り日々の生活にかかしている	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 生活リズムを把握し、本人のできる力や分かる力を発見できるように努めている 職員は申し送りや日々の記録で総合的に把握をしている	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 日々の生活の中で関わりや感じたこと課題になっている事を、家族と情報交換し介護計画に反映させている	
			(外部評価) 介護計画にそった支援となっているかを日々チェックする様式を活用している。また、毎月のユニット会議で担当者を中心に皆で話し合った気付きを計画に活かしている。管理者は、家族の面会時や毎月の報告書にて情報交換を行い、意見を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子は個別生活記録へ記入している 申し送りノートの活用にて情報を共有し、支援の実践や介護計画の見直しに活かしている	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 要望や状況に応じて支援している	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の行事等へ参加したり図書館等の利用をしている	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 協力医療機関の診察と、本人、家族の要望に応じて適 切な医療を受けられるよう支援している	
			(外部評価) 利用者や家族が入居前からのかかりつけ医への受診を 継続して希望する場合、職員が通院を支援している。 家族が受診に同行する場合も、管理者がかかりつけ医 に情報提供し、また受診後は家族から報告を受けて適 切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護師が職員として各ユニット1名ずつ配置されてい る 日常の健康管理を行い相談出来るよう支援している	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 病院や家族と情報交換を行い早期に退院できるよう努 めている ソーシャルワーカーの方と情報交換を行っている	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した時の対応は家族の方と話し合いをしている	
			(外部評価) 看取り指針を作成しており、基本事項や留意事項を定 めているが、実際に看取りの経験はない。現在のとこ ろ、食事が食べられない状態で医療的処置が必要にな れば、家族と話し合って医療機関に転院となるケース が多い。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事故発生時のマニュアルが作成されており、研修や勉強会に参加して実践力を身につけている	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練や避難方法を消防署を立会いのもと、実施している 地域との協力が得られるよう地域運営推進会議の場で、働きかけを行っている  (外部評価) 消防署立会いのもとで行っている防火訓練の様子を運営推進会議で報告し、現状を知ってもらえるよう働きかけている。訓練の結果を踏まえて自主的に防災訓練を行うよう計画中である。	地域で行われる防災訓練等に積極的に参加することで、地域の一員であるという共通認識を持ってもらえるよう根気良く働きかける努力と工夫を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 1人1人の誇りやプライバシーを損ねないよう言葉かけを行っている 職員会やユニット会の時には対応を話し合い意識の統一を図っている  (外部評価) トイレ誘導時の声かけや入浴時・排泄時等には特に注意してプライバシーに配慮し、本人の気持ちを大切にされたケアを心がけている。不適切な声かけ等があれば、その都度管理者やユニットの主任からアドバイスを受け、職員間でも気をつけ合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 入居者の方との会話から本人の思いが自然に出る話題作りを職員は心がけている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 1人1人の個性に合わせた支援を行っている その日、その時の本人の気持ちを尊重した支援をしている	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 季節に合った服、衣類を用意している 理、美容については家族や本人の要望を聞き取り対応している	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 調理の下ごしらえや、食前のお茶を配る等、入居者の方がそれぞれ出来る事を行っている  (外部評価) 食事は、副菜のメインとなるものを購入し、配送してもらい、それ以外は利用者と共に調理している。食材等の購入は利用者と一緒に行き、食事の準備・調理等を行っている。利用者からの希望はメニューに取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 1人1人の食事量及び水分量を把握している	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、1人1人の口腔ケアを実施している 出来るところは見守りし状況に応じ、介助を行っている	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個人の排泄パターンが分かるようチェックしている トイレで排泄してもらい自立支援に努めている	
			(外部評価) トイレ誘導の時間を大まかに決めていますが、利用者の様子を見ながら随時支援しており、可能な限りトイレでの排泄が可能になるよう努めている。自力での排泄が可能な利用者についても、できること・できないことを把握し、適切に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 個人の排泄状態を把握、確認しながら体操や水分補給を行い個別に対応している	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 1人1人入浴を楽しめるよう支援している 仲の良い方同士は誘い合って入浴することもある	
			(外部評価) 浴室、脱衣室とも、職員がゆったりと介助できる十分な広さがあり、車いすの利用者も安全に入浴できる。特殊浴槽はないが、浴槽が中央にあり両側から介助することができるため、今後重度化がすすむことがあってもリフト等を設置しての対応が可能と考えられる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の状況に応じた支援に努めている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の管理は看護師がおこなっている 薬の用法、用量は個別の薬表を確認し理解している	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴を生かした役割を見つけ行っている 楽しみ事に取り組み日々を過ごせるよう支援している	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 1人1人の希望に応じ、外出支援に努めている 家族の協力を得て墓参りに行っている	
			(外部評価) 近所への散歩は日常的に行っており、寒い時期には広い中庭で日向ぼっこをしたり、草引きをしてストレス発散をしている。また、買い物やドライブで気分転換する機会も計画的にもっている。また、個々に希望があれば家族の協力も得て外出できるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物に出た時には所持している お金で支払えるよう支援している	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話で会話したり年賀状を書いて出している 家族や知人とのやり取りもある	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 室温、湿度調整を行い快適な状態で過ごして頂いている フロア内に入居者の方が作ったその季節に合ったものや花等を飾り季節感のある空間作りを行っている	
			(外部評価) エアコンで温度調節し、足元が冷えないよう床暖房を完備している。加湿器と窓の開閉で湿度を調整している。リビングの窓から広い中庭を眺めることができ、ソファに座ってのんびりと寛げる。トイレの表示も利用者に配慮した工夫がみられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) フロア内、エレベーターホール前にソファ、イスを用意し、個々の好きなどころで過ごしたり、仲の良い入居者の方同士で過ごしていただけるよう工夫している	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族の写真を飾ったり、馴染みの物や使い慣れた家具を持ってきて頂いている	
			(外部評価) ベッド、整理たんす、カーテンは備え付けている。クローゼットがあるため居室をゆったり使うことができ、思い思いの馴染みの品等が持ち込まれ、居心地よく生活できるよう個別に工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 段差がなく手すりを設置し安全な生活を確保している 各居室、トイレ、浴室には表札や表示をしている	